

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	3170200517	
法人名	医療法人 厚生会	
事業所名	グループホーム白鳥の里	
所在地	鳥取県米子市彦名町1210-1	
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/31/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigvosoCd=3170200517-00&amp;PrefCd=31&amp;VersionCd=">http://www.kaigokensaku.jp/31/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&amp;JigvosoCd=3170200517-00&amp;PrefCd=31&amp;VersionCd=</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	有限会社 保健情報サービス
所在地	鳥取県米子市西福原2-1-1YNT第10ビル111号
訪問調査日	平成24年11月7日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

入居者一人ひとりがあるがままを大切にすることを理念に掲げ、一人ひとりに向き合い各々が希望される生活パターン、姿を受け止めて支援を行なっている。日々の生活の中で「何でも手作り、心を込めて」を心掛け、温かい家庭料理を入居者と共に作ったり、各種行事もバラエティに富んだものや季節を感じられるものを実施したりしている。地域の行事や交流にも力を入れ、地域の灯台となれるグループホーム(厚生会)を目指している。  
また、医療機関や老人保健施設等の併設施設が充実している事や健康管理に細心の注意を払っていることで、医療面でも入居者、家族等より安心していただいているとの声をいただいている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

運営母体の医療法人の医療機関、老人保健施設等が併設されており、健康管理や緊急時の迅速な対応など、家族にとっても安心できる環境の整ったグループホームである。法人内の研修やグループホーム内の内部研修も充実しており、職員のレベルアップも図られている。「入居者一人ひとりがあるがままを大切にをする」ことを理念に掲げ、その人らしい暮らし方ができるよう、なるべく利用者の方のことができることを行っていたり、日々寄り添いながら、利用者本意のケアに努められている。また、地域との関わりも大切にされ、地域と共に歩むグループホームになるよう取り組んでおられます。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念が共有できるように各所に掲示をしている。また、入居者のあるがままを大切に実践に繋げている。理念は、ホーム便りに掲載し地域やご家族にも理解を得るようにしている。	法人の基本理念と、GHの職員で話し合って作られた理念が事業所内の各所に掲示されており、職員の名札の裏面にも各自携行され、常に意識を持って支援に当たっておられる。また、ホーム便りにも毎回掲載して、地域や家族にも理解していただけるよう努力されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の公民館行事や神社への祭り等々への参加や地域の方を講師に迎えて絵手紙教室を継続して行なっている。地域の清掃活動にも出来るだけ参加をしている。地域の方が、野菜や花をお裾分けして下さることや飛び入りで、グループホームの行事に参加して下さったこともある。	地域行事への参加も活発である。地域の方のボランティアの絵手紙教室も継続されている。保育園、小学校との交流も継続中である。日常の散歩の時など、地域の方との交流も見られる。ホームの行事を地域に案内し、参加していただいている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	代表者が中心となって、地域のサロンの研修会で「認知症のケア」について講師を行い、理解を深めている。また、その際は職員も書面でだが認知症の人の支援方法等を地域の方へ向けて発信した。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、地域の方々へサービス状況等の報告をしている。防災や安全管理に関して等のアドバイスや意見を頂いたり、地域のサロンへの参加をさせて頂けたりすることができた。	2ヶ月に1回開催されている。入居者、家族代表、公民館長、自治会長、民生委員、駐在さん、地域包括支援センター等で構成されており、運営の状況や運営上の課題や要望、希望を話し合われている。	市の職員の方へ、働きかけ、毎回の参加を要請されると良いと思います。長寿社会課のみならず、福祉課、防災担当部署の職員等お願いされても良いと思います。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当者の方に参加して頂くことや、必要時には市の長寿社会課に相談させて頂いている。しかし、市町村との連携は不十分である。	運営推進会議は、包括支援センターとのやり取りが多い。相談等は市の長寿社会課に向き行っておられる。	意見交換や、協力関係構築のためにも、市職員の運営推進会議への出席要請を引続きお願いしたい。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束をしないことを意識しケアに努めている。身体拘束廃止委員会を中心にし、言葉による拘束廃止週間を設けることもあった。危険回避以外の目的で、センサーマット等は使用しないようにしている。	職員は、法人の研修に参加したり、ホーム内の研修に参加し、スピーチロックも含めた身体拘束について十分に理解し、取り組んでおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々のケアの中で、虐待行為が行なわれないようにまた、見過ごす事のないように注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に機会があれば参加するようしたり、資料を見たりしているも全職員が理解を深めていない。今後、制度についても学ぶ機会を設け、必要時にはそれらを活用し繋げていけるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、ご家族や申込者との十分な面談をし、理解して頂けるように説明を行なっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1回の家族会や法人内でご家族あてアンケートを実施している。寄せて頂いた意見は、職員間で十分協議しケアや運営に反映するようにしている。協議した内容は、家族会で報告を行なった。	利用者の意見については日常的に、家族の方の意見は、ホームへの訪問時の聞き取りや、独自の家族アンケートという形で実施されている。その結果を基に検討し、反映されている。また、年1回の家族会の折にも話し合う機会を設けておられる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は、頻回に現場に足を運び職員の意見を聞いている。毎月のカンファレンスや面談を通して意見や提案を聞き反映するようにしている。協議した内容は、家族会で報告を行なった。	法人の代表者による職員への聞き取りもある。月に1回は職員によるカンファレンスも行われており、意見要望を汲み取っている。また、個別面談も行われ個人的な意見も聞く体制が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人では人事考課を取り入れており、職員がやりがいをもち働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量や経験年数等の把握をしている。それらに応じて、資格取得をバックアップしたり研修を受ける機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年に1回のグループホーム間の相互研修に参加したり、弓浜地区の助け合いネットワークではポスター展示でグループホームの活動を紹介させて頂いている。近隣のグループホームの管理者と交流する機会もあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には事前に面談を行い、本人の語りを大事にし不安感を抱かせないように関係作りをしている。入居されてしばらくは密にコミュニケーションを図るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、ご家族との面談時間を多くもつようにしご家族の思いを理解するようにしている。信頼関係を築くことができるように、連絡や情報交換を密に行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前の面談で身体状況等現状把握すると共に、グループホームで行える支援について十分説明を行っている。ご本人とご家族が必要とされる支援を見極めるため、入居判定会議を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の暮らしの中で、共に支え合う存在として一つの家族に近い関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に対して、「報告、連絡、相談」を行い、絆を深めるように努めている。各種行事や催し物には、参加を呼び掛けるようにし、グループホームでの生活を実際に見て頂く機会を多くもっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や知人、大切な人との面会がある時は時間の許す限りゆっくりと過ごして頂いている。また、馴染みの理美容院や公園、他施設に入所中の家族に会いに出掛ける等の外出支援も行っている。	入所前のアセスメントや日常の会話等から馴染みの場所や人を探り、極力関係継続ができるよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が、集団生活の中で自身の力で関係を築けるように職員は見守りしている。必要時には、利用者間に入りコミュニケーションの援助を行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他事業所に移行される場合等、グループホームでの生活の状況やケア内容等の情報を提供している。退所された入居者やご家族が、訪ねて来て下さり相談に応じる事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者一人ひとりとゆっくり話しをする時間を大切にし、意向や希望を伺うようにしている。また、本人からの語りが困難な方でも、表情や仕草・行動からも汲み取れるように努めている。	一人ひとりの希望、意向の把握もケアの一つと考え、日常生活の会話、行動、表情の中から、個々のパターンを汲み取り、職員間で話し合い、検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やこれまでの生活歴や暮らし方等をよく知る方々から情報を収集している。情報は共有できるように記録に残しケアに繋げている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりのその日の暮らし方や状態を、本人との会話や行動の中から探り気づきを得ている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族、他職種とよく話し合いをして介護計画書は作成している。	本人・家族の希望・意向を良くは把握したプランとなっている。1ヶ月に1度はモニタリングを行い、プランを評価し、確認したら、職員で話し合いながら進めておられる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実施記録は細かく個別記録に記入している。また、気づきや情報は職員間で共有できるように、都度ケースカンファレンスを行い、ケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	現在、該当することはないにも必要時には、既存のサービスに捉われない柔軟なケアができるように努めていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	不足している面も多いが、地域住民や包括支援センター職員等から情報や助言を頂き、生活の中に活かしていけるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は、入居者一人ひとりやご家族の希望に添って出来るようにしている。また、代表者が医師でもあるため、いつでも相談でき、早期対応や連携を図りやすい。かかりつけ医と連絡ノートを作成し情報交換をしている方もある。	月1回法人の医療機関より往診がある。本人の希望で他の医療機関を受診なさる場合にも、受診支援の体制は確保されている。受診結果については、連絡ノートで確認できるようになっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の観察やケアの中での、気付きや変化等に対して疑問に思ったことは看護職に相談、連絡ができる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院された場合は、安心感が得られるよう職員は面会の回数を重ねている。地域連携室との連携を密にして、情報交換も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から、ご家族や関係職種とは話し合う機会は設けているも、不安や課題が残る。現時点では、地域の関係者への協力等は得られていない。	ホーム側としては、本人・家族と話し合い、基本的な方針を説明し、ご理解頂いている。	重度化や終末期における方針、ホームでの看取りの方針の再度の整備の必要性を感じます。関係者が一つの方針を共有する事が大事になります。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な訓練や研修会は不十分。法人の安全管理委員会主催の研修会には、参加し知識を得るようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内での防災マニュアルを整備し、それに準じている。防災マニュアル(概要)の説明会も開催されており、白鳥の里職員も参加している。新入職他、全職員にまでの周知徹底が図られていないため課題が残る。	年2回の火災訓練は実施されている。災害時には併設の法人施設全体で連携するようになっている。備蓄も法人施設で管理されている。	ホーム単独での避難訓練等も検されると良いかもしれません。また、避難時に利用者の安全確保のため、地域の方への協力要請も今後取り組まれると良いと思います。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの人格を尊重し、方言や馴染みの言葉を取り入れながら言葉遣いや対応にも配慮している。	法人内の接遇研修に参加するなど対応されている。人生の先輩として敬う気持ちを持ち接しておられる。言葉かけや対応について、利用者の気持ちを考えながら注意しながら接しておられます。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、自分の思いを伝えられるように話しかけて頂けるような雰囲気を作り、質問の仕方への工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合で動いてしまう時間帯もあるも、一人ひとりのペースを大切にしている。また、レクリエーション等の時間を設けているも無理強いはいないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりの希望にあわせ理美容院への外出、履き物や洋服を買い替える時は一緒に出かけ選んで頂いたり、薄化粧をして頂いている。毎朝の更衣時も、その日着る物をご自分で選ばれるように声掛けや支援を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「手作りの家庭の味」を大切にし入居者と職員と一緒に準備し、食事と同じテーブルで会話を楽しみながらできるようにしている。また、食後は食事内容の感想を言って頂き、次に活かせるようにしている。	「手作りの家庭の味」ということで、旬の食材を使いながら職員が中心となり、御手伝いいただける部分は利用者さんのお願いするやり方を、開所当時から継続されており、食事もおいしいと利用者さんも満足そうであった。みんなで楽しく食事を楽しむ雰囲気もあり良いと思えました。職員はおやつ作りの研修にも参加し、より利用者さんに楽しんで頂く為の努力もされています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人に所属する栄養士のアドバイスを受けながらバランスの良い食事が提供できるようにしている。一人ひとりの食事量、水分量は毎日チェックを行い、少ない時には、栄養補助食品等も取り入れて摂取して頂いている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの歯肉や義歯、口腔内の状態を把握して、使用する用具や方法を使い分けている。また、義歯使用者は毎晩、義歯洗浄剤にて洗浄を行っている。用具も必要に応じ消毒し、衛生面にも気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方には排泄パターンをチェックしたり、トイレに行きたいというサインを見逃さず、さりげなくトイレへ案内したりしている。排泄の不快感を感じられないように、各々に見合った排泄介助を行っている。	個々に応じたトイレ誘導をできるように、職員全員が個々の利用者のパターンやサインを見逃さないよう心掛けられている。声掛けについても自然にさりげなくされておられた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日水分摂取量をチェックし便秘がちな時は水分を多めに取って頂いたり、散歩や運動を勧めたりしている。腹部の温器法やマッサージも取り入れ予防に努めている。また、食事内容に工夫を凝らしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間が限られている事もあるが、全体的にその日の気分や体調に合わせた入浴をして頂いている。入浴がお嫌いな方に対してのアプローチは不十分である。	時間帯の制限はあるものの、希望があれば毎日の入浴も可能である。お一人入浴拒否の方については、いろいろな方法を試されているが、難しく、今回は非常に困られていた。	今回の入浴拒否の方については、過去の利用の介護事業者や、包括支援センターに相談することも良いかも知れません。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間、良眠できるように昼間は、極力活動してもらったり散歩や日光浴を勧めたりしている。また、寝具も使い慣れた物を使用して頂き、安心して休息できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各入居者の内服薬の効用や副作用等の記入してあるファイルを作成いつでも閲覧できるようにしている。また、入居者が利用されている薬局の方とも、情報交換を行い必要時には助言もしてもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意な事や身体機能、生活歴にあわせて、家事や大工仕事、庭の草取り等をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	全ての入居者ではないが、一人ひとりの希望に添いながら市内の神社の祭りや買い物、外食等へ出掛けるように努めている。また、ご家族に協力して頂き、外出・外泊も勧められている。	近隣への散歩や、食材の買出し、花見などの行事での外出、外食など利用者さんの希望を聞きながら掛けられるよう努めておられる。ご家族の方へも働きかけも行われており、外食・外泊も確認できた。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	売店等買い物へ行かれた時は、ご自分で支払をして頂くようにしたり、小額だが自己管理をされている方もいる。グループホームでお預かりしている方に関しても、自由に使うように声を掛けている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者や家族の要望に沿って、自由に電話して頂いている。また、季節の節目には手書きの暑中見舞いや年賀状、絵手紙等も入居者からご家族へ出して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間には、季節ごとの装飾や花、写真等を掲示している。また、こまめに室温や明るさの調節を行っている。	ゆっくり過ごせる、ソファーや、和室のこたつのコーナーなどあり、思い思いに過ごせるようになっていた。飾りつけも、絵手紙や季節感のあるかざり付けがされており、温度管理、調光にも気を使われており、快適であった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホームの各所には、ソファーや椅子等を配置いつでも休めたり、談笑できたりするような居場所作りをしている。ホールのテレビの前には、広めにソファーを設置し気の合う入居者同士過ごしていただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室には、使い慣れた家具や寝具、ホーム等で作った作品やご家族の写真等を飾り、居心地の良い居室作りをしている。各入居者が思い思いに居室を使われている。	居室には、本人が使い慣れたタンス、机、椅子なども持ち込まれ、ご家族の写真や手紙なども飾っており、ご自宅の一室のように利用されている事が伺えた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	段差には、目印となるようなテープを貼る等安全且つ自立した生活が営めるように工夫している。また、ホーム内は比較的広く明るい造りとなっており、歩行補助具(シルバーカー)を使用される方もゆとりを持ち歩行できている。		